

資料渉猟余話

その108

二、座光寺他の浅井

杖突峠を経て高遠に

入り、高遠城址を散

策後、同地泊。

明治二五年七月二

九日午前七時五分、

長野尋常師範学校修

学旅行隊百余名は、

当時まだ珍しかった

蒸気機関車に乗って

長野停車場を出発し

た。上田で下車し、

塩田・丸子・武石等

を経由して和田に着

き、そこに泊まった。

二日目は、雨に濡

れながら和田峠を越

え、下諏訪の春宮・

秋宮に詣でて後、上

諏訪泊。翌朝五時に

宿を発った一行は、

迎えに来て、当地の
熊谷氏が親鸞聖人の
鏡を秘蔵しているの
で一見すべしと勧め
たので、立ち寄って
見た。
それから氏の案内
で高岡の森に着いた。
古墳の様子や墳上の
善光寺の什宝であ
た。行
善光寺の
ねた。こ
光が生ま
えられ、
の後裔と
である。庭
光が難波
像を持ち
や大きい
た。

の今村善吾氏宅を訪
ねた。こ
光が生ま
えられ、
の後裔と
である。庭
光が難波
像を持ち
や大きい
た。

浅井泷の飯田下伊那紀行

明治二五年の修学旅行記より②

鎌倉貞男

高岡神社を見学し、
寺如来腰掛石があっ
た。一行はその庭で
休息し、昼食をとっ
た。庭上の泉からは
玉や土器等が発掘さ
れた話を聞いた。近
くには古墳が多いこ
とも知らされた。

大島・山吹・市田
を過ぎ、座光寺の弓
矢沢より左に折れ
て、座光寺小学校を
目指した。途中に同
校の熊谷謹一校長が

「義光屋敷」と呼ばれる村長
で、如来寺（伊那の

善光寺）の什宝であ
た。行
善光寺の
ねた。こ
光が生ま
えられ、
の後裔と
である。庭
光が難波
像を持ち
や大きい
た。

そこから座光寺小
学校に赴き、茶菓の
饗応を受けた。この
ように我等一行を歓
待してもらえたの
は、今村村長と熊谷
校長、それと今村嘉
十郎収入役のお陰で
ある。ここにそのこ
とを記して深謝した
い。

同校から十余丁先
の上郷小学校から、
当校は沿道なので休
息していつて欲しい
という通報を受け

これより先、飯田
学校の職員が部奈・一
式の二氏が座光寺小
学校まで迎えに来て



「義光屋敷」と呼ばれた今村家（『座光寺の百年』より）



当時の今村善吾村長
『信濃諸士肖像録初編』より

兵隊等が通らないの
で我々が珍しいのだ
と思われた。
飯田学校に着く
と、同校職員及び近
隣諸校の校長・訓導
・諸氏が集まって歓
迎してくれた。席も
既に用意されてい
て、水と茶菓の接待
を受けた。郡役所職
員有志もこれに加わ
ったばかりか、各小
学校の教員も数里の
道もいとわず駆けつ
け、わざわざ我々を
迎えてくれたことに

心から感謝したい。
立ちよりに結ぶも
涼し諸人の深き心
の底川の水
最後に多少の所感
を述べて次回に譲り
たい。以上の通り、

いた。飯田町手前で
宮下氏の迎えもあ
り、一緒に飯田高等
小学校に向かった。
沿道の観衆は、市
街に入ると益々その
数を増し、まるで垣
根のようであった。
道もいとわず駆けつ
け、わざわざ我々を
迎えてくれたことに